



Q 熊出没の対策について「今すぐできる政策」「長期的な政策」を同時に進めていくべき

& 渡辺千恵 (文責)



A 関係機関と連携して進めていきたい

今すぐ取り組む対策

質問 柿の木伐採を業者に頼むと、場所、高さ、廃材処分費などにより高額になる。伐採について補助金の検討を。

答弁 前向きに検討する。

質問 現在猟友会は17名。すぐ動ける方は5名と聞いている。高齢化、担い手不足に対してガバメントハンターの導入の検討、期間限定の職員採用等の柔軟な対応を検討してみたい。

答弁 ガバメントハンターについては、改めて考えていかなければならないが、どんなことをしていけるのか考えていく。

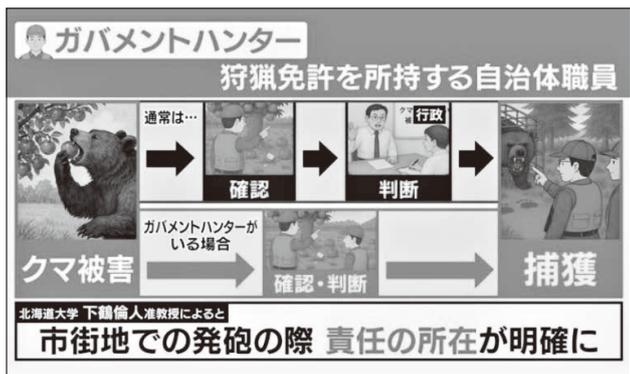
質問 熊の捕獲は危険が伴う。現在の猟友会の補助金では少ないのではないかと。町からの要請の場合について熊駆除補助金の検討を。

答弁 今年度中に検討していく。

長期の対策

質問 生活スタイルが変わり、山で炭を焼いたり、火を使ったり、整備をする方が減り、山が放置されている。森林環境譲与税を有効活用し、杉木の間伐など「里山整備」を進めるべきではないか。また町有林の間伐材を販売し、収入を里山整備にあてられないか。

答弁 現在データ収集をして取り組み中、里山整備を進めていかなければならない。



人口減少問題は「補助金などの制度」だけではなく「湯沢町の未来像」ではないか

質問 湯沢町の人口減少への取り組み、補助金制度は他自治体と比較しても遜色ない。しかし若者、移住者に聞き取りをすると「仕事と雇用の創出」、「教育と子育て環境」、「安心できる医療環境」、「暮らしと生活環境の充実」、「人とのつながりとコミュニティ形成」と5つの課題が出た。それぞれの課題について町の土台作りを考えていく必要があるのではないかと。

答弁 「君と一緒に暮らす町」が町のブランドスローガンである。持続可能な町づくりを目指し、現在の補助金制度をはじめ取り組んでいく。

答弁 予算的な問題もあるが、現状を把握しながら検討する。

質問 湯沢町の高齢者の割合は約40%、湯沢町を担う世代が増えないと高齢者を支えられなく、町も持続できない。若者世代が求めていることは「この町でどんな未来が描けるか」



この町でどんな未来が描けるか